

2019年度大阪3x3連盟大会報告書

掲題の件、下記のとおりご報告申し上げます。

●大会名	第6回3x3U18日本選手権大会中日本エリア大会
●日程	2019年11月17日(日)
●会場	大阪府立柴島高等学校体育館



1. 審判【トーナメントチーフ】小島慶子(香川県)、茅野修司(大阪府) ※3x3トップリーグ担当(JBA派遣)
 (大阪府)黒川直樹(3x3連)、畑迫賢一(中体連)、風間裕一郎(社会人連)、高木健太(ミニ連)
 (兵庫県)柳生志乃、高橋祐太、汐野 壱歩、木下 琢也
 (京都府)畑中慎一郎
 (滋賀県)奥田耕士
 (奈良県)島谷幸之助、嶋田正善



2. 審判員の課題及び全体共有テーマ

(1)競技規則の周知、確認 (2)判定にかかる確認事項 (3)試合にかかる審判確認事項

※ トレール、リードの役割分担、RSBQ+アドバンテージ/ディスアドバンテージへの対応、
ノークリアードボール等の確認、DOGの処置等を全体共有。

3. スケジュール

9:00-10:00 PGC(3x3競技規則、判定に関する留意事項等)

※3x3コーリングガイドライン、試合映像を使用

10:30-16:10 競技(2面展開)

16:10-16:40 ポストゲームカンファレンス



4. 現地で行った判定等に関するアドバイス等

【ゲームコントロールに関する事項】

- ・各種クロックは正確に管理する。また、判定はそのクロックを厳格に適用する。
- ・声をさらに出して、事前警告や選手とのコミュニケーションに活用する。
- ・ディレクションを正確に表現する。3x3は声援や音響で審判の意思がTOに伝わりにくいため、ディレクションが唯一の伝達手段となりうることに留意。ディレクションを間違えると、ショットクロックがリセットされてしまうので注意が必要。
- ・タイムインのジェスチャーは不用だが、TOが正しく計時開始しているか、確認を必ず行う。

【3x3独自ルールに関する事項】

- ・試合中にコートサイドで選手への声援(実質はプレーヤーへの指導)を行なっている者(実質は当該チームのHC)に対し、他のチーム関係者が「あの(選手への指導)行為は許されるのか？」旨のクレームがあった。3x3競技規則第2条を意識したクレームであるが、プレーヤーはコート外の誰とも“交流”をしてはならないであり、プレーヤーがうなづく等の“交流”をしなければ罰則は適用されない。なお、当該罰則(ワーニングまたはテクニカルファウル)はチームに与えるものであり、コート外から声援や指示をする関係者へは適用されないことに注意。
- ※今回事象は、クレームを言ってきた者に対し、上記内容を説明。さらに、声援を行っていた者に対しては大会関係者が、過度の声援は控えるように要請して対応終了。
- ・3x3特有のルールへの対応に慣れていない審判員が多数。チームファウルの個数に応じたフリースロー個数の誤り(チームファウル7個以上は、フィールドゴール成功後でもフリースローは2本付与)、クリアー・ザ・ボールの確認不備、1個目のUF罰則に対するフリースロー2本の対応ミス(リバウンド対応のラインナップをしないように誤指示)等
- ※いずれもコートサイドにいた別の審判員が事前にミス修正をアドバイスして、実務上はトラブルなし。
- ・ファウルの判定基準である「RSBQ+アドバンテージ/ディスアドバンテージ」に不慣れ。経験の蓄積が今後の課題。

5. ゲームコントロール向上及び強化に向けた今後の課題

- ・アドバンテージ/ディスアドバンテージまで考慮した判定ができるようになること。
- ・TOとの連携、得点・タイム管理・ファウル個数管理ができるようになること。
- ・チームファウル7個以上、UF,TFの際の処置を正しく行えるようになること。